



学校教育目標

豊かな心で協力しあえる子ども
自ら学び創造し深く考える子ども
何ごとにも進んでやりぬく強い子ども

エリアで育む「絆」

帯広市では、同じ地域で子どもが育っているが学校種間の連携が薄いことなどから起こる、子どもたちが新しい環境になじめない「中1ギャップ」と呼ばれる課題に対応するために、10年ほど前から中学校の校区を単位に『エリア・ファミリー』での取り組みを進めてきています。愛国小学校は、『七中エリア・ファミリー』に所属してこれまでも小中での円滑な接続を意識し、

①3校で共通の目指す子ども像の設定

→『ふるさとの功しを引き継ぎ 自ら未来を切り拓く子ども』

②学力向上に向けた取組

- 3校の教員研修の内容と子どもたちの学習面での成果・課題の共有
- 3校共通の学習のきまりの設定
- ICTの利活用の推進
- 家庭学習の取組を交流し、学習習慣の定着に向けた取組の推進
- 各校の取組の成果と課題を共有して今後の方向性の確認

③体力向上に向けた取組

- 3校合同での体力測定の実施
- 七中教諭による体育の出前授業の実施
- 3校の子どもたちの体力面での成果・課題の共有

④生徒指導面での取組

- 授業参観週間を通じて互いの子どもたちの様子を直接共有
- 七中テスト期間に合わせたノーメディアデーの実施
- ファミリーサミットを実施し、児童会・生徒会の子どもたち同士で交流



といった取組を行ってきました。今年度はさらに、進学後には同じ中学校に通うことになる大正小学校の子どもたちとの交流を深めるため、2校で連携してこれまでよりも一歩進めた取組を行ってきているところです。11月26日(火)には、よさこいでもお世話になっている黒田勝史さんが演出を担当する、おびひろ市民ミュージカル(通称 obi カル)によるミュージカル『銀河鉄道の夜』を、1~4年生が大正小学校の子どもたちと一緒に観劇してきました。舞台装置・照明・音響なども含め、総勢40名ほどのみなさんの魂のこもったステージは圧巻で、歌やダンス、演技にみんなが心を奪われていました。

また、せっかくの機会ということで、観劇の前には教室で一緒に交流授業を行ったり、給食を食べたり休み時間を一緒に過ごしたりなどして、笑顔いっぱい交流を深めてくることができました。今後も、エリアの絆を3校で大切に育んでいきたいと思えます。



子どもたちが見せてもらったミュージカルは、2月23・24日に市民文化ホールで公演されるそうです。体育館とは違う本格的なホールでの公演はまた一味も二味も違ったものになるはず。obiカルのみなさん、頑張ってください!

「夢が近づいた気がする！」

12月11日（水）に6年生が大正小学校へ出かけ、「大人（社会人）に対するあこがれをもつことができるようにする」、「今後の学校や社会での生活に対する期待感と意欲を高める」ことをねらいとした、キャリア教育の授業に参加してきました。保育士、警察官、ホテルマン、大工、消防士、JA職員、郵便局員、シェフ、タクシー運転手といったみなさんが、実際に働いている際の服装（制服など）で揃った様子はまさに圧巻で、



子どもたちは目を輝かせながら各ブースを回り、たくさんの質問をそれぞれの職業のプロの方にしていました。短い時間ではありましたが、今回の授業を通して自分の思いを十分に深めることができたことは、終わった後に「どうだった？」と聞いてみた際に、「めちゃくちゃ楽しかった！将来の夢が近づいた気がする！」と、うれしそうに答える子どもたちの様子からはっきりと感じられました。素晴らしい時間を作っていただいた講師のみなさんと大正小学校の先生方、本当にありがとうございました！



確実に広がる子どもたちの視野

「昔に比べて地球が狭くなった」なんてことがよく言われます。これは、交通機関の発達等により、誰もが海外にまで気軽に行けるようになった、という文脈から言われることが多いですが、学校現場においても、外国籍の子が在籍している学校が増えてきていることやインターネットの発達、日常的に行われているALTの授業など、同じようなことを感じる機会が本当に多くなりました。振り返ってみると、私が子どもの頃には海外の方に出会うことなどほとんどなく、街で偶然見かけることがあったときには、「外人だ！」と驚きの声を上げたものでしたが、今の子どもたちはもうそんなことはありません。帯広・十勝でも（そして愛国でも）、海外の方が日常的に働いているというのも当たり前前の時代になってきましたし、子どもたちの生きる未来はそうした動きがさらに加速しているであろうことは、疑いようのない事実です。だからこそ学校では、広い視野をもって多様な他者と協働できる資質・能力を身に付けられるようにし、当たり前のように世界を見据えて生きていくことができる子どもたちを育成していかなければと考えています。

そうした中で、11月26日には5・6年生がメキシコのクリスさんを、27日には3・4年生がベトナムのミーさんを学校にお招きして、国際交流の授業を行いました。どちらの授業でも、街や自然の様子、言葉や食べ物のことなどを通じてその国について教えてもらった後に、子どもたちがやっている遊びを体験させてもらいました。5・6年生は「ロテリア」というビンゴに似た遊び、



3・4年生はベトナム流の「ゴム跳び」の体験でしたが、遊びを通じてお2人と直接交流を深めることができ、大変楽しいひとときを過ごすことができました。今後も、子どもたちの視野を広げる取組をたくさん行っていきたいと考えています。



今回は、お2人の他に中国とフィンランド出身の方も一緒に来られたため、日本も入れた5カ国もの人たちが愛国小の体育館に集いました。